密集市街地における市街地再開発事業の 計画手法と合意形成に関する研究

池田早希

東武東上線の上板橋駅周辺では、「上板橋駅南口駅前東地区第一種市街地再開発事業」が平成16年11月15日に都市計画決定となり、今後更なる発展が見込まれる都市となっているが、合意形成が課題となっている。

本研究では、過去や現在の市街地再開発事業において住民を巻き込んだまちづくりに実績を挙げた世田谷区三軒茶屋・太子堂と足立区北千住を調査し、上板橋駅再開発における合意形成に役立つような知見の抽出を試みた。その結果、以下の4つの知見を得た。

- (1) 共有できる目標を見出すまでの多くの話し合う
- (2) 住民と行政の対等な関係性を構築する
- (3) 少人数制の話し合いの場を提供する
- (4) 住民と行政の良好な関係性の構築を都市計画決定までに構築を行う

再開発の実現のためには、住民一人ひとりが当事者意識を持って協力する必要がある。上板橋駅再開発においても、上記の知見を取り入れることで、住民の当事者意識が高まり、合意形成が進展することが期待される。